

# 東京大学大気海洋研究所研究集会

## 2012 年度古海洋シンポジウム

日 時： 平成25年1月7日(月) 10:00~18:00

1月8日(火) 10:30~14:45

場 所： 東京大学大気海洋研究所 講堂

〒277-8564 千葉県柏市柏の葉5-1-5 TEL 04-7136-6011

コンビーナー： 西 弘嗣(東北大学 学術資源研究公開センター)

TEL: 022-795-6612, e-mail: hnishi@m.tohoku.ac.jp

大気海洋研対応者：川幡 穂高 (東京大学海洋研究所 海洋底科学部門)

TEL: 03-5351-6443, e-mail: kawahata@ori.u-tokyo.ac.jp

## プログラム

### 1月7日(月)

- 10:00-10:05 開会のあいさつ  
西 弘嗣(東北大学)
- 10:05-10:20 「ちきゅう」の今年度実施航海の概要と今後の予定  
梅津慶太・江口暢久(JAMSTEC)
- 10:20-10:35 IODP の動向とJ-DESC の活動  
梅津慶太(JAMSTEC)
- 10:35-10:50 房総沖ちきゅう掘削コア C9010 の酸素同位体比層序と古環境変動  
池原 実(高知大), Kenji M. Matsuzaki, 西 弘嗣(東北大), 佐藤時幸, 田村 薫(秋田大)
- 10:50-11:05 下北沖石炭層地下生命圏掘削(IODP Exp.337)で採取された掘削コアの岩相と堆積環境  
村山雅史(高知大), Reischbacher, D.(レオーベン大), Limmer, D. (アバディーン大), Philips, S.(ニューハンプシャー大), Susilawati, R.(クイーンズランド大), Park, Y-S.(KIGAM), 久保雄介(JAMSTEC), Hinrichs, K-U.(ブレーメン大), 稲垣史生(JAMSTEC), and IODP Expedition 337 Science Party
- 11:05-11:20 IODP Expeditions 342 でのニューファンドランド沖の掘削航海の成果速報  
山口龍彦(University of California, San Diego), Richard D. Norris (Univ. California, San Diego), Paul A. Wilson (Univ. Southampton), Peter Blum (Texas A&M Univ.), 西 弘嗣(東北大), 山本裕二(高知大), 守屋和佳(金沢大), 金子雅紀(JAMSTEC), 高木悠花(早稲田大), 松井浩紀(東北大), IODP Expedition 342 Scientists
- 11:20-11:35 IODP Exp. 342 で得られた始新世/漸新世境界の炭酸塩含有量と同位体層序  
守屋和佳(金沢大), Paul A. Wilson(サウサンプトン海洋センター), Richard D.

Norris(スクリプス海洋研究所), Peter Blum(USIO), 池原 実(高知大), 長谷川 卓  
(金沢大), IODP Exp. 342 Scientists

11:35-11:50 IODP Exp. 346 の Shipboard + Onshore 研究体制と研究目標  
多田隆治+Exp.346 国内 WG

11:50-12:00 ポスター紹介

1. 2010年5月KT10-07航海で得られた対馬海峡と日本海南東部の珪藻および珪質鞭毛藻群集  
小野寺丈尚太郎(JAMSTEC-RIGC), 木元克典(JAMSTEC-RIGC)
2. 白亜紀後期～漸新世の海生珪藻化石 Hemiaulus 属の形態  
鹿野寛哉(山形大学理工学研究科)
3. 北半球地域における始新世の珪質微化石について  
阿部健太(山形大学大学院理工学研究科)
4. ベーリング海 IODP U1341 サイトにおける放散虫生層序と古海洋環境  
岡崎裕典(九州大学)・池上隆仁(九州大学)・高橋孝三(北星学園大学)
5. 石灰質ナノ化石群集に基づく中新世～鮮新世の琉球列島”泥海(島尻層群)”の年代層序学的・古海洋学的復元  
今井 遼(東北大学大学院理学研究科地学専攻博士後期課程1年次), 佐藤時幸(秋田大学大学院工学資源学研究科), 井龍康文(東北大学大学院理学研究科地学専攻)
6. 佐渡沖過去 1.8 万年間の酸素同位体比・Mg/Ca 水温  
小平智弘・堀川恵司(富山大)・池原研(AIST)・張勁(富山大)
7. 湖沼堆積物から復元された我が国へのアジア大陸起源の栄養塩負荷の増大と生態系への影響  
槻木玲美(愛媛大・上級セ), 阿草哲郎(愛媛大・CMES), 上田眞吾(日大 生物資源), 加三千宣(愛媛大・上級セ), 田辺信介(愛媛大・CMES), 谷幸則(静科大・環境研), 豊田和弘(北大・地球環境), 占部城太郎(東北大・生命)
8. 海洋プレート超深度掘削計画  
海野進・森下知晃(金沢大学)ほか
9. LGM において氷床が風応力を通して AMOC に与える影響  
シェリフ多田野サム(東大大気海洋研究所)
10. 高解像度測色データに基づく水月湖堆積物供給源推定の試み  
鈴木克明(東京大学), 中川毅(英・ニューカッスル大), 多田隆治(東京大学), SG12プロジェクト一同
11. 一の目潟・年縞堆積物中のダストから何がわかるのか?  
長島佳菜(JAMSTEC)・山田和芳(早稲田大学)・原田尚美(JAMSTEC)・米延仁志(鳴門教育大学)
12. 冷水サンゴ *Desmophyllum* sp. 骨格の微量元素に記録された古環境情報と骨格微細構造の影響  
吉村寿紘(東大・大気海洋研), 鈴木 淳(産総研・地質情報), 為則雄祐(JASRI, SPring8), 川幡穂高(東大・大気海洋研)
13. 西南極における海洋-棚氷相互作用の理解にむけて; 海洋融解が接地線および氷床量に与える影響  
小長谷貴志(東京大学大気海洋研究所), 阿部彩子(東京大学大気海洋研究所), 齋藤冬樹(海洋研究開発機構)

12:00-14:00 -----昼食及びポスターコアタイム-----

- 14:00-14:15 北西オーストラリア Bonaparte 湾堆積物による, 最終氷期最盛期開始時の古環境復元  
石輪 健樹(東大・大気海洋研究所)横山 祐典(東大・大気海洋研究所), 宮入 陽介(東京・大気海洋研究所), 鈴木 淳(産総研・地質情報), 池原 実(高知大学海洋コア総合研究センター), ObrochtaStephen(東大・大気海洋研究所), 池原 研(産総研・地質情報), 木元 克典(海洋研究開発機構), JulienBourget(西オーストラリア大学), 松崎 浩之(東京大学工学系研究科)
- 14:15-14:30 大型底生有孔虫化石群集に基づくグレートバリアリーフ陸棚斜面における最終氷期最盛期頃の古環境復元(IODP 第325次航海)  
柳岡範子(琉球大 院 理工), 仲田潮子(琉球大 院 理工), 藤田和彦(琉球大 理), 菅浩伸(岡山大 教育), 横山祐典(東大 大気海洋)
- 14:30-14:45 化石サンゴを用いた東シナ海の古水温復元 -中期から後期完新世の気候変動の解明に向けて  
関有沙, 横山祐典(東大・大気海洋研), 鈴木淳(産総研・地質情報), 川久保友太, 宮入陽介(東大・大気海洋研), 菅浩伸(岡山大・教育), 岡井貴司(産総研・地質情報), 浪崎直子(国立環境研)
- 14:45-15:00 化石シャコガイの微小領域測定からみる6000年前の古海洋環境  
堀 真子・白井厚太郎・高畑直人・佐野有司(東大大海研)・小林夏子・岡本和明(埼玉大教育)・渡邊 剛(北大理)
- 15:00-15:15 山陰沖における最近数十年間の浮遊性有孔虫群集の変化  
林 広樹・出口恵美(島根大・総合理工)・辻本 彰・野村律夫(島根大・教育)
- 15:15-15:30 南大洋における鮮新世-更新世の生物源オパール酸素同位体比変動  
山根雅子(東京大学)・岡崎裕典(九州大学)・井尻暁(海洋研究開発機構)・横山祐典(東京大学)・酒井豊三郎(宇都宮大学)
- 15:30-15:45 -----休憩-----
- 15:45-16:00 ODP Site1237 の鉱物組成から見た後期漸新世以降の中央アンデスの環境変動  
野間恵理子, 入野智久, ハスリザル・ビン・シャーリ, 山本正伸(北大・地球環境)
- 16:00-16:15 更新世初期のベーリング海峡閉鎖の気候インパクト  
関宰(北大), 小野寺丈尚太郎(JAMSTEC), 池原実(高知大), 岡崎祐典(九大), 河村公隆(北大), 高橋孝三(北星学園), 他
- 16:15-16:30 中新世の地中海の孤立と蒸発  
黒田潤一郎 (JAMSTEC), Francisco J. Jimenez-Espejo (Univ. Granada), 野崎達生, 鈴木勝彦 (JAMSTEC)
- 16:30-16:45 約45~50Maの北極海の環境変動に対する堆積物中のリンの形態別存在量変化  
橋本俊太・山口耕生(東邦大院), 高橋孝三(九州大院, 現:北星学園大学)
- 16:45-17:00 現生浮遊性有孔虫の光共生シグナルの検証—殻体安定同位体比の成長プロファイルから—  
高木悠花(早大), 守屋和佳(金沢大), 石村豊穂(茨城高専), 鈴木淳(産総研), 川幡穂高(大気海洋研), 平野弘道(早大)

- 17:00-17:15 -----休憩-----
- 17:15-17:30 有孔虫による硝酸塩呼吸のアミノ酸窒素同位体比への記録  
野牧秀隆, 力石嘉人, 土屋正史, 豊福高志, 大河内直彦, 北里洋(海洋研究開発機構)
- 17:30-17:45 Living-fossil coccolithophore survivors of the Cretaceous-Paleogene mass extinction  
Kyoko Hagino (Okayama Univ.), Jeremy R Young (UCL), Paul R Bown (UCL), Jelena Godrijan (UCL), Denise K. Kulhanek (GNS Science), Kazuhiro Kogame (Hokkaido Univ.), Takeo Horiguchi (Hokkaido Univ.)
- 17:45-18:00 JAMSTEC コアデータサイトと航海・潜航データ検索システム(DARWIN)の紹介  
佐藤悠介, 市山祐司(海洋研究開発機構)
- 18:15-20:15 懇親会
- 1月8日(火)**
- 10:30-10:45 原生代海洋化学環境と物質循環のモデリング  
尾崎和海(東大 大気海洋研究所), 田近英一(東大 新領域)
- 10:45-11:00 低緯度—中緯度遠洋域深海相ペルム紀/三疊紀境界層の硫黄同位体比変動  
高橋 聡(東京大学), 海保邦夫(東北大学), 堀利栄(愛媛大学), Paul Gorjan (ワシントン大学), 渡邊 隆弘(東北大学), 山北聡(宮崎大学), 竹村厚司(兵庫教育大学), K. Bernhard Spörli (オークランド大学), 掛川 武(東北大学), 大庭 雅寛(東北大学)
- 11:00-11:15 Stratigraphy and paleoceanographic variations in East Sea (Japan Sea) sediments: a general consideration  
Sangmin Hyun (Institute of Korea Ocean Science and Technology)
- 11:15-11:30 半遠洋性泥とは何だろうか? イベント堆積物とその保存ポテンシャルから  
池原 研(産総研・地質情報)
- 11:30-11:45 将来の気候感度推定の現状と古海洋データの役割について  
吉森正和(東京大学大気海洋研究所)
- 11:45-12:00 生物源マグネタイトの古海洋研究への応用  
山崎俊嗣(東京大学大気海洋研究所)
- 12:00-13:00 -----昼食及びポスターコアタイム-----
- 13:00-13:15 平城京における重金属汚染—古代大量消費社会における都市環境—  
川幡穂高(東京大学大気海洋研究所), 山岡香子((独)産業技術総合研究所), 山下宗佑(東京大学理学部), 下田 玄((独)産業技術総合研究所), 岡井貴司((独)産業技術総合研究所)
- 13:15-13:30 太平洋におけるマイワシ魚鱗堆積量の数十年～数百年スケール変動  
加 三千宣(愛媛大学上級研究員センター)・杉本隆成(東海大学海洋学部)・山本正伸(北海道大学地球環境科学研究院)・武岡英隆(愛媛大学沿岸環境科学研究センター)
- 13:30-13:45 Millennial-scale climate variability in the western Bering Sea: First results from  $\delta^{15}\text{N}$   
Jan Riethdorf(東京大学大気海洋研究所)

- 13:45-14:00 過去2900年間の太平洋10年スケール変動とレジームシフト  
山本正伸(北大院地球環境)・加三千宣(愛媛大)
- 14:00-14:15 ENSO と古気候古海洋  
横山祐典(東京大学大気海洋研究所), 鈴木淳(産業技術総合研究所)
- 14:15-14:30 温暖環境における植生変化が Polar-amplification に及ぼす影響  
大石龍太(国立極地研究所・東京大学大気海洋研究所), 阿部彩子(東京大学大気海洋研究所・海洋開発研究機構)
- 14:30-14:45 Reconstruction of the Western Antarctic Peninsula climate during the Holocene: evidence for predominant control of insolation and ENSO  
Etourneau Johan (Université Pierre et Marie Curie)